

令和 5 年 6 月 9 日現在

機関番号：32641

研究種目：若手研究

研究期間：2018～2022

課題番号：18K12748

研究課題名（和文）マクロ経済学における「短期」と「長期」の統合

研究課題名（英文）Synthesis of "Short Term" and "Long Term" in Macroeconomics

研究代表者

村上 弘毅（Murakami, Hiroki）

中央大学・経済学部・准教授

研究者番号：70803972

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,200,000円

研究成果の概要（和文）：この研究の主要な成果は、査読を有する国際学術雑誌に掲載された論文9編及び査読を有しない学術雑誌に掲載された論文1編並びに国際学術雑誌から査読を受け改訂を要望されている論文1編である。これらの成果は、いずれも、マクロ経済学における短期的分析と長期的分析の方法の統合というこの研究の目的に適合するものである。

研究成果の学術的意義や社会的意義

この研究は、一国経済において、短期のみでなく長期においても普遍的に成立する有効需要の原理に動学的見地から適切な理論的基礎を提供し、以て財政政策及び金融政策その他の経済政策の健全な運営を行う際に有用な知見を提供しようとするものである。

研究成果の概要（英文）：The outcomes of this research project are as follows: nine papers in refereed journals, one paper in a non-refereed journal and one paper under review by a refereed journal (revisions requested). They all serve the main purpose of this research project: the synthesis of the short-term analysis and the long-term analysis in macroeconomics.

研究分野：マクロ経済学

キーワード：マクロ経済学 ケインズ経済学 短期分析 長期分析 有効需要の原理

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

## 1. 研究開始当初の背景

マクロ経済学において、「短期」とは、有効需要の原理が成立し、総供給が、数量調整により総需要に応じて決定されるような期間を示すものとして用いられる術語であり、「長期」とは、総需要と総供給の差が価格調整によって解消され、セイの法則が成立するような期間を示すものとして用いられる術語である。短期及び長期の区分は、考察の対象とする期間を明確にすることで分析を容易にするものであるが、短期的分析及び長期的分析は、経済機構に関して相互に異なった前提に基づくものであるため、景気循環、経済成長その他同一の経済的現象に対しても相互に異なった知見を提供するものである。そもそも長期に生ずる経済的現象は、短期に生ずる経済的現象の帰結であって、これらの現象は、本来的には、相互に異なる前提に基づく方法によって別に分析されるのではなく、同一の前提に基づく統一的方法によって分析されなければならないものである。

マクロ経済学の基礎理論として広く承認されている「動学的確率的一般均衡 (DSGE) 理論」は、長期的分析で前提とされる価格調整が迅速に実施されないような仮定を設けることで短期的分析を行う方法を提示するものであって、前段で論じた短期的分析及び長期的分析の統合の必要を満たす理論とみなされるものである。しかし、この理論は、長期で成立する結論に整合するように短期的分析の内容を構成することを目的とするものであって、前段で論じたように、長期の経済的現象が短期の経済的現象の結果として生ずるものであるという事実に立脚して設計されたものではない。特に、この理論は、財市場における総需要の不足によって現に生ずる非自発的失業ではなく、労働市場における労働条件の不一致による摩擦的失業のみによって失業の機構を説明するものであって、有効需要の原理 (及びこれに付随する非自発的失業) を前提とする短期的分析の内容に基づくものではない。

私は、前段で論じた動学的確率的一般均衡理論の問題を深く自覚し、長期的分析の内容を短期的分析の内容に整合させるような動学的理論を設計することを目的として、この研究を開始した。その際、私は、有効需要の原理が短期的にも長期的にも成立する場合において生ずる経済的現象に関する動学的分析を行うと共に、この分析で想定される有効需要の原理が長期的にも成立する状況が、家計、企業その他の経済的主体の動学的に最適な行為の帰結として生ずる機構について理論的考察を行った。

## 2. 研究の目的

この研究の目的は、有効需要の原理が短期的にも長期的にも成立する場合において生ずる経済的現象に関する動学的分析を行うと共に、この分析で想定される有効需要の原理が長期的にも成立する状況が、家計、企業その他の経済的主体の動学的に最適な行為の帰結として生ずる機構を解明し、以て短期的分析と長期的分析との統合を図ることである。特に、有効需要の原理が長期的に成立する機構は、動学的確率的一般均衡理論に関する研究が十分に考察することのなかったものであって、この理論に基づく分析方法に代わるものを提示する上で欠くことのできない検討事項である。

## 3. 研究の方法

この研究は、以下の内容を順に実施することで、これを行った。

1. 家計が動学的に最適な意思決定に基づいて行う消費、労働供給及び資産形成 (貯蓄) を理論的に考察すること。但し、家計は、その労働供給が企業の提示する労働需要を超過しないという制約条件の下で、その各別の財に対する消費及び労働供給によって定まる効用 (又はその割引現在価値) を最大にするものとしてこれを表現する。
2. 企業が動学的に最適な意思決定の結果として行う生産、労働需要及び資本形成 (投資) を理論的に考察すること。但し、企業は、各財の需要が時間の経過と共に飽和すること (製品ライフ・サイクル) を認識して、既に開発した財を生産すると共に、新たな財の開発の可能性を高める研究開発活動を行い、自らの期待利潤を最大にするものとしてこれを表現する。
3. 前 2 号の研究内容に基づいて、短期的分析の対象たる景気循環及び長期的分析の対象たる経済成長を統一的方法によって考察すること。

## 4. 研究成果

この研究の主要な成果は、次のようにこれを分類することができ、各々の研究の成果は、次のようにこれを整理することができる。

1. 家計又は企業の動学的に最適な意思決定に関する研究 (前節第 1 号及び第 2 号に該当するもの)
  - [1] 村上弘毅 (2020) 「マクロ経済学の基礎理論に関する一考察」『中央大学経済研究所年報』第 52 号, 261-283 頁。
  - [2] Murakami, Hiroki (2023) “Product life cycles, product innovation and firm growth,” revision requested by a refereed journal.

2. 景気循環及び経済成長に関する研究（前節第3号に該当するもの）

- [3] Murakami, Hiroki (2018) “Existence and uniqueness of growth cycles in post Keynesian systems,” *Economic Modelling* 75, 293-304.
- [4] Murakami, Hiroki (2019) “A note on the ‘unique’ business cycle in the Keynesian theory,” *Metroeconomica* 70 (3), 384-404.
- [5] Murakami, Hiroki (2020) “Monetary policy in the unique growth cycle of post Keynesian systems,” *Structural Change and Economic Dynamics* 52, 39-49.
- [6] Murakami, Hiroki (2022) “The unique limit cycle in post Keynesian theory,” *Chaos, Solitons and Fractals* 154, 111597.
- [7] Murakami, Hiroki (2022) “Keynesian and classical theories: static and dynamic perspectives,” *Evolutionary and Institutional Economics Review* 19, 343-367.
- [8] Murakami, Hiroki (2023) “On growth cycles in a stochastic post-Keynesian model,” *Communications in Nonlinear Science and Numerical Simulation* 118, 106995.
- [9] Murakami, Hiroki and Hiroaki Sasaki (2020) “Economic development with accumulation of public capital: The crucial role of wage flexibility on business cycles,” *Economic Modelling* 93, 299-309.
- [10] Murakami, Hiroki and Rudolf Zimka (2020) “On dynamics in a two-sector Keynesian model of business cycles,” *Chaos, Solitons and Fractals* 130, 109419.
- [11] Murakami, Hiroki and Rudolf Zimka (2021) “On dynamics in a medium-term Keynesian model,” *Discrete and Continuous Dynamical Systems B* 26 (11), 5925-5940.

これらの研究成果の多数（[3-11]）は、査読を有する国際学術雑誌に論文として掲載されたものであって、それ以外のもの（[2]）は、国際学術雑誌の査読を受けているものである。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計10件（うち査読付論文 9件 / うち国際共著 2件 / うちオープンアクセス 4件）

|  |                      |
|--|----------------------|
| 1. 著者名<br>Hiroki Murakami                                  | 4. 巻<br>154          |
| 2. 論文標題<br>The unique limit cycle in post Keynesian theory | 5. 発行年<br>2022年      |
| 3. 雑誌名<br>Chaos, Solitons and Fractals                     | 6. 最初と最後の頁<br>111597 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>10.1016/j.chaos.2021.111597    | 査読の有無<br>有           |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている (また、その予定である)                     | 国際共著<br>-            |

|   |                         |
|---|-------------------------|
| 1. 著者名<br>Hiroki Murakami and Rudolf Zimka              | 4. 巻<br>26              |
| 2. 論文標題<br>On dynamics in a medium-term Keynesian model | 5. 発行年<br>2021年         |
| 3. 雑誌名<br>Discrete and Continuous Dynamical Systems B   | 6. 最初と最後の頁<br>5925-5940 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>10.3934/dcdsb.2021145       | 査読の有無<br>有              |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている (また、その予定である)                  | 国際共著<br>該当する            |

|   |                         |
|---|-------------------------|
| 1. 著者名<br>Hiroki Murakami and Hiroaki Sasaki  | 4. 巻<br>93              |
| 2. 論文標題<br>Economic development with public capital accumulation: The crucial role of wage flexibility on business cycles | 5. 発行年<br>2020年         |
| 3. 雑誌名<br>Economic Modelling  | 6. 最初と最後の頁<br>299 ~ 309 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>10.1016/j.econmod.2020.08.005   | 査読の有無<br>有              |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  | 国際共著<br>-               |

|  |                         |
|--|-------------------------|
| 1. 著者名<br>Hiroki Murakami  | 4. 巻<br>19              |
| 2. 論文標題<br>Keynesian and classical theories: static and dynamic perspectives | 5. 発行年<br>2022年         |
| 3. 雑誌名<br>Evolutionary and Institutional Economics Review                    | 6. 最初と最後の頁<br>343 ~ 367 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>10.1007/s40844-021-00205-5                       | 査読の有無<br>有              |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難                                       | 国際共著<br>-               |

|  |                       |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名<br>村上弘毅                         | 4. 巻<br>52            |
| 2. 論文標題<br>マクロ経済学の基礎理論に関する一考察          | 5. 発行年<br>2020年       |
| 3. 雑誌名<br>経済研究所年報(中央大学)                | 6. 最初と最後の頁<br>261-283 |
| 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)<br>なし          | 査読の有無<br>無            |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>-             |

|  |                       |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名<br>Hiroki Murakami  | 4. 巻<br>70            |
| 2. 論文標題<br>A note on the "unique" business cycle in the Keynesian theory | 5. 発行年<br>2019年       |
| 3. 雑誌名<br>Metroeconomica   | 6. 最初と最後の頁<br>384-404 |
| 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)<br>10.1111/meca.12222                            | 査読の有無<br>有            |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難                                   | 国際共著<br>-             |

|   |                      |
|---|----------------------|
| 1. 著者名<br>Hiroki Murakami and Rudolf Zimka                                | 4. 巻<br>130          |
| 2. 論文標題<br>On dynamics in a two-sector Keynesian model of business cycles | 5. 発行年<br>2020年      |
| 3. 雑誌名<br>Chaos, Solitons & Fractals                                      | 6. 最初と最後の頁<br>109419 |
| 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)<br>10.1016/j.chaos.2019.109419                    | 査読の有無<br>有           |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている(また、その予定である)                                     | 国際共著<br>該当する         |

|   |                     |
|---|---------------------|
| 1. 著者名<br>Hiroki Murakami   | 4. 巻<br>52          |
| 2. 論文標題<br>Monetary policy in the unique growth cycle of post Keynesian systems | 5. 発行年<br>2020年     |
| 3. 雑誌名<br>Structural Change and Economic Dynamics                               | 6. 最初と最後の頁<br>39-49 |
| 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)<br>10.1016/j.strueco.2019.10.002                        | 査読の有無<br>有          |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている(また、その予定である)   | 国際共著<br>-           |

|  |                         |
|--|-------------------------|
| 1. 著者名<br>Hiroki Murakami  | 4. 巻<br>75              |
| 2. 論文標題<br>Existence and uniqueness of growth cycles in post Keynesian systems | 5. 発行年<br>2018年         |
| 3. 雑誌名<br>Economic Modelling   | 6. 最初と最後の頁<br>293 ~ 304 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>10.1016/j.econmod.2018.07.001                      | 査読の有無<br>有              |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難   | 国際共著<br>-               |

|  |                         |
|--|-------------------------|
| 1. 著者名<br>Hiroki Murakami  | 4. 巻<br>70              |
| 2. 論文標題<br>A note on the "unique" business cycle in the Keynesian theory | 5. 発行年<br>2019年         |
| 3. 雑誌名<br>Metroeconomica   | 6. 最初と最後の頁<br>384 ~ 404 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>10.1111/meca.12222                           | 査読の有無<br>有              |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難                                   | 国際共著<br>-               |

[学会発表] 計6件 (うち招待講演 1件 / うち国際学会 5件)

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>Hiroki Murakami   |
| 2. 発表標題<br>The unique limit cycle in post Keynesian systems                        |
| 3. 学会等名<br>The 12th International Conference on Nonlinear Economic Dynamics (国際学会) |
| 4. 発表年<br>2021年  |

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>村上弘毅   |
| 2. 発表標題<br>Monetray Policy in the Unique Growth Cycle of Post Keynesian Systems |
| 3. 学会等名<br>進化経済学会   |
| 4. 発表年<br>2020年   |

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>Hiroki Murakami  |
| 2. 発表標題<br>Inflation-Deflation Expectations and Economic Stability in a Kaleckian System  |
| 3. 学会等名<br>Kyoto University Faculty of Economics The 100th Year Anniversary International Conference Series "Economic Growth and Income Distribution: Facing Real Economy Beyond Schools" (招待講演) (国際学会) |
| 4. 発表年<br>2019年   |

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>Toichiro Asada and Hiroki Murakami  |
| 2. 発表標題<br>Inflation-Deflation Expectations and Economic Stability in a Kaleckian System     |
| 3. 学会等名<br>ORCOS 2018 (14th Viennese Conference on Optimal Control and Dynamic Games) (国際学会) |
| 4. 発表年<br>2018年  |

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>Hiroki Murakami  |
| 2. 発表標題<br>Monetary Policy in the Unique Growth Cycle of Post Keynesian Systems       |
| 3. 学会等名<br>MDEF 2018 (10th Workshop of Modelli Dinamici in Economia e Finanza) (国際学会) |
| 4. 発表年<br>2018年   |

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>Hiroki Murakami  |
| 2. 発表標題<br>Monetary Policy in the Unique Growth Cycle of Post Keynesian Systems |
| 3. 学会等名<br>45th Annual Conference of Eastern Economic Association (国際学会)        |
| 4. 発表年<br>2019年   |

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

|  | 氏名<br>(ローマ字氏名)<br>(研究者番号) | 所属研究機関・部局・職<br>(機関番号) | 備考 |
|--|---------------------------|-----------------------|----|
|--|---------------------------|-----------------------|----|

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

| 共同研究相手国 | 相手方研究機関 |
|---------|---------|
|---------|---------|